

市町村名	与那国町						
平成 2 7 年度（繰越）沖縄振興特別推進市町村交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 -	与那国町漁業担い手育成プラン実施事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 3 - (7) - エ	
担当部課名	産業振興課 農林水産班	事業実施（予定）年度	平成26～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業者の担い手の育成・確保及び経営安定対策の強化 - 1 - (6)	
事業内容	小規模離島である与那国町では漁業は重要な産業の一つである。しかし、近年漁業従事者の高齢化が進むとともに、過疎化も進んでいることから、島内外から次世代の担い手を積極的に育成することが極めて重要である。そのために、与那国町の漁業従事者団体に補助を行い、新規・既存漁業者に漁業設備の貸出をすることで漁業経営の安定化を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）	予算の状況	(a) 当初予算額	26年度	26年度（繰越）	27年度	27年度（繰越）	28年度
		(b) 予算現額	42,048	-	40,000	-	
		(c) 増減額（b-a）	42,048	-	69,966	-	
		(d) 繰越額	0	-	29,966	-	
		A．計（b+d）	-	30,070	-	41,599	
	B．執行済額	うち交付金充当額	42,048	30,070	69,966	41,599	
		次年度繰越額	11,977	20,349	28,367	35,274	
		執行率（％）（B/A）	9,581	16,279	22,693	28,219	
		執行率（％）（B/A）	30,070	-	41,599	-	
	予算の状況の説明	不用額が6,325千円発生しているが、当初計画のエンジン仕様の変更に伴うものであり事業内容はすべて実施した。また、エンジンが受注生産となっていることから、復興需要により生産が追いつかず、不測の日数を要したことから、年度内の完了が困難となり繰越となった。					
活動目標（指標）及び達成状況	H27活動目標（指標）		達成状況				
	漁業従事者団体が、操業に必要な漁船等を新規・既存漁業者に貸し付ける場合の購入に対し補助する。	目 標	（ 漁船等の購入及び貸付の実施 ）	（ 漁船等の購入及び貸付の実施 ）	（ ）	（ ）	
		実 績	漁船等の購入及び貸付の実施	漁船等の購入及び貸付の実施			
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績					
	達成状況説明	漁船等の購入及び貸付について、中古船購入（4名）、エンジン載せ替え（2名）、装備品導入（1名）の貸付を実施し、漁業従事者の漁業経営の安定化を図った。					
成果目標（指標）及び進捗状況	H27成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
	漁業経営の安定確保 既存漁業者従事者数の維持確保：32人	目 標	（ ）	（ 32人 ）	（ 32人 ）	（ ）	（ ）
		実 績		31人	31人		
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績					
	進捗状況説明	平成27年度の進捗状況として新規就業者1人増となったが、既存漁業者従事者が1人減となったことにより漁業従事者数31人と現状を維持する状況となった。しかしながら、新規就業者を確保できたことは一定の成果であると判断している。今後は、IUターン者も見込まれており、本事業を継続的に推進することで新規就業者及び既存漁業従事者の維持確保を図り漁業経営の安定化に繋がると思われる。					

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・与那国町での漁業は重要な産業の一つであるが、近年漁業従事者の高齢化が進み、担い手の積極的な育成が極めて重要となっている。そのことから漁業従事者団体に補助を行い、新規・既存漁業者に漁業設備の貸出をすることで漁業経営の安定化を図る必要がある。 ・県外及び県内から新規就業のため多くの問合せ等を受けているが、受け入れのための住宅の確保が困難となっており今後の課題となっている。 ・中古船の購入を行った場合に発生する廃船が、漁港内に放置されないよう事業導入時における指導の強化する必要がある。	・本事業で漁業従事者団体に補助を行い、漁業設備の貸出を継続して行くには、適正な維持管理が必要である。また、新規・既存漁業者の確保を図る上で、住宅の整備、確保を早急に進める必要がある。 ・当町には、産業廃棄物処理場が無いことから、漁船更新時に発生する廃船の処理が課題となっており、早急な対策が必要である。 ・上記の産業廃棄物処理場については、他事業を活用し早急に処理場の整備に取り組む必要がある。
今後の取り組み方針		
漁業従事者団体が、操業に必要な漁船等を新規・既存漁業者に貸し付け購入に対し補助を実施していくことにより、漁業者の負担軽減、所得増加及び経営安定の向上を図り、水産業の活性化と島の活力を維持・推進すると共に、既存漁業者、新規就業者及び担い手の育成へ繋げていく。漁船更新時の廃船処理に関する課題については、高額な廃船費用が原因となり様々な課題が発生していることから、与那国町単独ではなく離島市町村全体の課題として沖縄県へ強く支援を要望し対応を協議していく方針である。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金
	82,053	63,641	50,912	12,729
				交付対象外経費
				18,411
与那国町 63,641千円 補助金 63,641千円 与那国町漁業協同組合 63,641千円 受益者負担分 (交付対象外経費) 18,411千円 (受益者負担20%) 中古船、エンジン取替及び装備品購入にかかる補助金				
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 補助金の支出先については、当事業内容により精通していることから妥当であると考える。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 与那国町漁業担い手育成プラン実施事業交付金申請及び実績報告を確認の上で決定しており、妥当であったと考えている。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 受益者負担については事業費の20%負担しており、妥当であったと考えている。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○ 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。	

市町村名		与那国町							
平成 2 7 年度（繰越）沖縄振興特別推進市町村交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】									
事業番号・事業名		2 - 与那国町新製糖工場整備事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所			
担当部課名		産業振興課 農林水産班		事業実施 (予定)年度		平成27年度			
				沖縄振興基本方針 該当箇所		第3章 - 3 - (7) - カ 亜熱帯・島しょ性に適合した農林 水産業の基盤整備 - 1 - (6)			
事業内容		沖縄県含みつ糖製糖施設近代化事業を活用し、与那国製糖工場を新工場へと建て替えを計画している。しかし、沖縄県含みつ糖製糖施設近代化事業では、本体のみの工事となるため、事業敷地工事として必要な敷地内整備に係る工事（敷地内の舗装、排水、擁壁等の工事）を本事業にて実施する。							
実施方法		☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）				27年度	27年度（繰越）	28年度	29年度	30年度	
		予算 の 状 況	(a)当初予算額	120,921	-				
			(b)予算現額	120,921	-				
			(c)増減額(b-a)	0	-				
			(d)繰越額	-	37,944				
			A.計(b+d)	120,921	37,944				
		B.執行済額		82,977	33,555				
		うち交付金充当額		66,375	26,850				
		次年度繰越額		37,944	-				
		執行率（％）(B/A)		68.6%	88.4%				
予算の状況の説明		・不用額が4,389千円発生しているが、入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。また、自衛隊配備に伴う工事、並びにその他の工事が地域的に集中し、資材搬入の調整に不測の日数を要したこと。また、台風21号の台風襲来による本町全域への甚大な被害の影響により、年度内の完了が困難となった。							
活動目標 (指標) 及び達成状況		H27活動目標(指標)		達成状況					
				27年度	28年度	29年度	30年度		
		与那国町新製糖工場敷地の整備の実施 (敷地整備面積:5,115㎡)	目 標	(製糖工場敷地の 整備の実施)	()	()	()		
			実 績	製糖工場敷地の整備 の実施					
			目 標	()	()	()	()		
			実 績						
達成 状況 説明	沖縄県含みつ糖製糖施設近代化事業を活用し、与那国製糖工場を新工場へと建て替えを計画している。しかし、沖縄県含みつ糖製糖施設近代化事業では、本体のみの工事となるため、事業敷地工事として必要な敷地内整備に係る工事（敷地内の舗装、排水、擁壁等の工事）を本事業にて実施する。								
成果目標 (指標) 及び進捗状況		H27成果目標(指標)		基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)	
		安全・安心で高品質な黒糖の生産 現状処理量 100t/日量 施設整備後処理量 50t/日量	目 標	()	(新規施設処 理量 50t / 日量)	()	()	()	H29年度 10a あたり・平均 反収6トン
			実 績		新規施設処理量 50t/日量				
			目 標	()	()	()	()	()	
			実 績						
		進 捗 状 況 説 明	新工場の建設が完了したことにより、安全・安心で高品質な黒糖の生産が日量で50t処理出来る施設能力を確保することが出来た。そのことにより、コストが低下し工場経営が安定化し生産者が安心してさとうきびを生産できる環境が構築できた。また、製品品質の向上及び衛生面にも配慮した製糖ラインとすることで、消費者が期待して求める安全・安心な与那国産黒糖の提供が可能となった。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・さとうきびは与那国町産業の柱のひとつであり、製糖時期には、関連産業に対する波及効果が大い。現製糖工場は、昭和37年に操業を開始後、50年以上を経過し施設の老朽化が激しく維持管理にかかる経費が年々増加している。また、故障時における操業ラインの停止など産糖量や品質に多大な影響を及ぼしていることから、食品衛生管理も兼ね備えた新工場へと建て替える必要がある。そのため、敷地内工事(敷地内の舗装、排水、擁壁等の工事)を本事業にて実施した。	・新工場の完成に伴い安定した操業ラインが整備され品質の向上、衛生管理の徹底及び操業日数の縮小を図り、生産者が安心してさとうきびを生産できる環境の構築へ繋げる。
今後の取り組み方針		
今後の取組として、生産者が安心してさとうきびを生産できる環境を維持し、平均反収(10aあたり、6トン)を目指し、品質及び農家所得の向上をはかり、消費者が安全・安心な与那国産黒糖の生産に繋げる。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>116,532</td><td>116,532</td><td>93,225</td><td>23,307</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	116,532	116,532	93,225	23,307	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
116,532	116,532	93,225	23,307	0										
与那国町 116,532千円 工事請負費 116,532千円 (株)共和産業 50,684千円 (有)大宜見組 65,848千円 与那国町新製糖施設(含みつ製造)外構工事(1工区) 与那国町新製糖施設(含みつ製造)外構工事(2工区)														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 工事業者は指名競争入札方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○ 執行額に不用額が生じているが入札残によるものであり適正だったと考える。 ○ 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	×	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那国町						
平成 2 7 年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-	与那国島歴史文化交流支援事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-工	
担当部課名	総務財政課 交流推進班	事業実施 (予定)年度	平成25～27年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	文化の発信・交流 -3-(1)	
事業内容	台湾花蓮市との様々な交流の歩みの記録をまとめ、現存している明治時代から現代までの与那国島の記録写真を展示するなど、与那国島に関する多種多様な資料を島内外へアピールすることを目的とした資料館及び観光拠点施設として「与那国島歴史・文化・交流資料館」(仮称)を整備する。						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況 (a)当初予算額 (b)予算現額 (c)増減額(b-a) (d)繰越額 A.計(b+d) B.執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)	25年度	25年度(繰越)	26年度	27年度	27年度(繰越)	
		310,000	-	-	185,637	-	
		276,812	-	-	227,808	-	
		▲ 33,188	0	-	40,921	0	
			268,602	-	0	66,744	
		276,812	268,602	-	227,808	66,744	
		8,210	84,297	-	161,064	62,648	
		6,568	67,437	-	128,851	50,118	
		268,602	0	-	66,744	0	
		3.0%	31.4%	-	70.7%	93.9%	
予算の状況の説明	・活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	・与那国島歴史文化交流資料館の建設 (鉄筋RC造、一部木造、平屋建、敷地面積: 2,543.13㎡、建築面積:579.52㎡)	目 標	与那国島歴史文 (化交流資料館の) (建設)	()	()	()	
		実 績	与那国島歴史文化交 流資料館の完成				
	・建築工事、電気設備工事、機械設備工 事、人材育成業務、監理業務、展示設備工 事、備品購入	目 標	・建築工事、電気設備工 事、機械設備工事、人材 育成業務、監理業務、展 示設備工事、備品購入	()	()	()	
実 績		・建築工事、電気設備工事、機 械設備工事、人材育成業務、 監理業務、展示設備工事、備 品購入の全ての業務を完了					
達成状況説明	平成27年度内に人材育成業務を実施完了。平成28年度に繰越事業として、建築工事、機械設備、電気設備、展示設置、工事監理、備品購入が完了した。「与那国島歴史・文化・交流資料館」として平成28年9月に開館することが出来た。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (27年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
	・施設整備工事の継続実施	目 標	()	(施設整備工事 の継続実施)	()	()	()
		実 績		施設完成			
	・年度内に供用開始	目 標	()	(年度内に供 用開始)	()	()	()
		実 績		H28.9供用開始			
	・ラボ体験スタッフの育成	目 標	()	(ラボ体験ス タッフの育成)	()	()	()
		実 績		育成人数3人			
	・与那国島歴史文化交流資料館の建設工 事:1棟	目 標	()	(与那国島歴史 文化交流資料 館の建設工 事:1棟)	()	()	()
		実 績		施設完成			
	・与那国島歴史文化交流資料館の完成:1 棟	目 標	()	(与那国島歴史 文化交流資料 館の完成:1 棟)	()	()	()
実 績			施設完成				

	・建築工事、電気設備工事、機械設備工事、展示設備、備品購入完了	目 標	()	()	()	()	()
		実 績		・建築工事、電気設備工事、機械設備工事、展示設備、備品購入完了			
	・27年度中に供用開始	目 標	()	(27年度中に供用開始)	()	()	()
		実 績		H28.9供用開始			
進捗状況説明	建築工事の実施にあたり想定外の調整等が必要となり、大幅な工期の変更が必要となったことから、平成27年度での完成が見込めない状況になったため、平成28年度繰越として対応することとなった。最終的には、平成28年度8月末で全ての整備が完了し、平成28年9月から供用が開始された。施設の供用開始によりこれまでの台湾との交流の歩みを記録した展示や、島の食や文化などを体感することが出来る観光交流型施設の拠点として展開することが出来た。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・台湾との交流記録を整理、保管、展示することにより、島民へ交流の意義を周知させ、これからの交流の発展に寄与すると同時に、台湾花蓮市側の与那国島に対するこれまで以上の理解と親交を深める場となる。また、島の歴史や文化に興味を抱かせる新たな観光ニーズへの対応が可能となると共に、観光客の誘客促進の拠点となる施設を整備することができた。 ・本町では観光客等の受入体制の充実が課題となっていたことから、今回の整備により誘客促進に有効活用することが重要である。 ・本体工事の大幅な遅れにより、その他の関連工事等が遅れる状況が懸念されたため、工事関係者等と緊密に協議及び打合せ等を行った。	当初計画より工期が大幅に遅れてしまったことから、事業実施に際しては事業関係者とこれまでに十分に調整等の意思疎通を図るとともに、不測の状況が発生した場合でも契約期間の延長が発生しないよう余裕を持った工期設定等による改善を実施する
今後の取り組み方針		
・平成28年度9月に供用開始され、今後は観光交流型施設として、与那国島の歴史的背景から他にはない文化や、国境の島としてそこに生活してき人の足跡を発信する場所や機会を創る場として、観光振興並びに地域活性化に取組、観光産業の発展を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
		総事業費		交付対象事業費	交付対象外経費
		223,712	223,712	178,969	
		市町村負担金		44,743	0
与那国町 223,712千円	委託料 11,578千円	株式会社 城建 4,665千円	〔	工事監理業務委託	〕
		株式会社 水圏科学コンサルタント	〔	人材育成業務委託	〕
	工事費 208,217千円	米元建設(株)・(有)大宜見組 特定建設共同企業体 143,579千円	〔	建築工事	〕
		株式会社 栄電社 18,036千円	〔	機械設備工事	〕
		株式会社 栄電社 13,932千円	〔	電気設備工事	〕
		株式会社 沖縄ハートス 32,670千円	〔	展示設置	〕
	備品購入費 3,917千円	株式会社 オキジム 3,917千円	〔	備品購入	〕
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○委託及び工事業者は指名競争入札方式により企業組織、実績、知識等を助案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は事業内容に見合った適正規模だと考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。			
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。			
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			

市町村名	与那国町						
平成 2 7 年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-	与那国町緊急車両(消防車)導入事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ	
担当部課名	総務財政課 総務班	事業実施(予定)年度	平成27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化		
事業内容	町内で発生する災害への町消防団の対応力を強化し、被害状況の解消、または拡大抑制のため当町の実情に合わせた装備を整備すると共に、在住者・来島者の災害時の不安解消を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	27年度(繰越)	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	40,000	0			
		(b)予算現額	40,000	0			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	0	40,000			
		A.計(b+d)	40,000	40,000			
	B.執行済額		0	32,076			
	うち交付金充当額		0	25,660			
	次年度繰越額		40,000	0			
	執行率(%) (B/A)		0%	80%			
予算の状況の説明		事業当初計画において、既存の消防車の仕様を基に事業費を見積っていたが、現在の消防車両の各基準に適合しない仕様があったため、仕様を変更したことで不用額が発生した。また、事業繰越については、発注から3ヶ月間での完成を予定していたが、他自治体からの同様な発注が重なったことから受注業者側の対応が厳しい状況となり年度内での完了が困難となり、事業費においても全額繰越となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	緊急車両(消防車)の導入	目 標	(導入委託)	()	()	()	
		実 績	委託業務実施				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	委託業務の実施により消防車両導入を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	緊急車両(消防車)導入完了(1台)	目 標	()	(1台)	()	()	()
		実 績		1台導入完了			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	既存の消防車両1台体制にさらに1台追加配備することにより、消防力の強化を達成。 貯水量の多い仕様の消防車を導入することにより、消防用水確保が困難な郊外の原野火災にも対応できる体制を整備した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	当町における火災の大部分が原野火災であるため、消火栓等の消防用水の確保が困難な地域での消火活動の際に、既存の消防車一台での消火活動では火災の鎮圧が行えないため、消防力の強化を行った。 消防車の追加により、2台体制での消火活動が可能になり、消防用水の補給と消化作業の並行活動により継続的な火災鎮圧が可能になったため、広範囲の火災発生時の体制の不安が縮小された。 消防車両の2台体制の消防力を最大限に発揮するためには、消防用水施設の充実が必要になるため、引き続き整備を進めていく必要がある。	当町の消防機関は非常備消防(消防団)であり、現在所属の団員は大型自動車両の免許を保持していないため、消防車両導入にあたり車両の規模を縮小する必要があるが生じた。消防団員の能力が今後の消防力強化の足枷になることを避けるため、大型免許の取得を含めた技能向上が欠かせない。また、消防団の能力に係らない消防体制の整備を進めていく必要がある。
今後の取り組み方針		
・強化した消防力を活かす関連設備の充実と消防機関の能力強化が必須。具体的には消防用水施設の充実と消防団の訓練教育の更なる実施。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>32,076</td><td>32,076</td><td>25,660</td><td>6,416</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	32,076	32,076	25,660	6,416	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
32,076	32,076	25,660	6,416	0										
与那国町 32,076千円 導入委託料 32,076千円 (有)新垣産業 32,076千円 (消防車両導入に係る業務 ・消防車両の購入 ・付属備品購入 ・緊急自動車両届出に係る申請)														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 委託の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考える。 ○ 予算規模については不足の事態により不用額が発生したが、当初の見積は適正な規模であったと考えている。 ○ 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		与那国町					
平成 2 7 年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-	与那国町災害時非常用発電装置導入事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ	
担当部課名	総務財政課 総務班		事業実施(予定)年度	平成27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化	
						-10-(2)	
事業内容	台風接近等の災害警戒時又は災害発生時の長期停電に対する電源確保、災害警戒(対策)本部の設置される庁舎と住民への災害情報伝達に最も使用される町防災無線設備の非常用発電機を整備する。						
実施方法	■ 直接実施 □ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	27年度	27年度(繰越)	28年度	29年度	30年度
		(b)予算現額	60,000				
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	0	60,000			
		A・計(b+d)	60,000	60,000			
	B・執行済額		0	59,498			
		うち交付金充当額	0	47,598			
		次年度繰越額	60,000	0			
	執行率(%) (B/A)		0.0%	99%			
	予算の状況の説明		・当初計画していた事業内容はすべて実施した。活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて予算額は、適正であったと考えている。また、事業繰越については、発注から2ヶ月間程度での完成を予定していたが、非常用発電装置の需要が予想以上に集中したことからメーカー側の資材及び技術者の確保が逼迫し年度内での完了が困難となった、そのため事業費においても全額繰越となった。				
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
	非常用発電装置の導入	目 標	(設置工事)	()	()	()	()
		実 績	設置工事実施				
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	達成状況説明	計画どおり非常用発電装置設置工事を2カ所にて実施した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	非常用発電装置の導入完了(・与那国町役場庁舎内:1基、・久部良岳防災無線設備:1基)	目 標	()	(2基)	()	()	()
		実 績		2基			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	与那国町役場庁舎敷地内及び久部良岳防災無線施設敷地内にディーゼル発電機による非常用発電装置を設置し、災害時等の電源確保を図った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	屋外設置のため塩害による耐用年数の縮小をさける必要があった。設備の外装を塩害に対応した仕様を考慮した。また、庁舎用の発電設備は付近に住宅があるため防音と排煙についても考慮した。 あくまでも非常用の電源確保であるため、不要な燃料の消費を避け庁舎の機能維持を目的とし、エアコン等の大型動力は給電対象から除外するなどの対応を行った。	庁舎内に発電設備が設置可能な場所の確保が困難であるため隣接地に屋外設置としたが、新庁舎建設などの際には屋内設置に切り替える方が塩害防止などの上でも理想的である。
今後の取り組み方針		
維持管理のため、塩害から装置を保護するため専用のボックスを作成し、非常用発電装置を収納する仕様とし、耐用年数の不用な消耗をさける対策を行った。また、燃料の確保を常に図り、特に防災用発電設備は山頂にあるため定期的な点検と燃料補給を実施する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>59,498</td><td>59,498</td><td>47,598</td><td>11,900</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	59,498	59,498	47,598	11,900	0
総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
59,498	59,498	47,598	11,900	0										
与那国町 59,498千円 → 設備工事費 59,498千円 → ダイハツディーゼル(株) 59,498千円 ・庁舎用非常用発電設備工事費 ・防災無線用非常用発電設備工事費														
資金の 使途の 流れ、 点検、 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 委託及び工事の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。 ○ 予算規模については不用額は502千円であり、適正な規模であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												